

表1 メタボリックシンドロームの診断基準

メタボリックシンドローム構成要素	共同声明 (2009)	日本基準 (2005)	IDF (2005)	AHA/NHLBI (NCEP-R) (2005)	NCEP ATP III (2001)	WHO (1999)
必須項目		内臓脂肪（腹腔内脂肪）蓄積 ウエスト周囲長*3 男性≥85cm 女性≥90cm （内臓脂肪面積 男女とも≥100cm ² に相当）*4	中心性肥満 ウエスト周囲長*7 男性≥85cm 女性≥90cm （日本人の基準）			インスリン抵抗性 耐糖能異常、IGT、または糖尿病の合併かつ/またはインスリン抵抗性の存在*13
		以下のうち2項目以上*5	以下のうち2項目以上	以下のうち3項目以上	以下のうち3項目以上	以下のうち2項目以上*14
腹部肥満	人種および国に特異的な基準*15			ウエスト周囲長 男性≥102cm*10.11 女性≥88cm*10.11	ウエスト周囲長 男性≥102cm*10 女性≥88cm*10	ウエストヒップ比 男性>0.9 女性>0.85 または BMI≥30kg/m ² またはウエスト周囲長 ≥94cm
トリグリセライド	≥150mg/dL*1.2	≥150mg/dL*1	≥150mg/dL*1	≥150mg/dL*1.12	≥150mg/dL	≥150mg/dL
HDL-C	男性<40mg/dL*1.2 女性<50mg/dL*1.2	かつ/または <40mg/dL*1 男女とも	男性<40mg/dL*1 女性<50mg/dL*1	男性<40mg/dL*1.12 女性<50mg/dL*1.12	男性<40mg/dL 女性<50mg/dL	男性<35mg/dL 女性<39mg/dL
収縮期血圧	≥130mmHg	≥130mmHg*1	≥130mmHg*1	≥130mmHg*1	≥130mmHg	≥140mmHg
拡張期血圧	または ≥85mmHg	かつ/または ≥85mmHg*1	または ≥85mmHg*1	または ≥85mmHg*1	または ≥85mmHg	または ≥90mmHg
空腹時血糖	≥100mg/dL	≥110mg/dL*1.6	≥100mg/dL*1.8.9 または 2型糖尿病の既往	≥100mg/dL*1	≥110mg/dL*1	
微量アルブミン尿						≥20μg/min または ≥30mg/g.Cr

- * 1 : 高TG血症、低HDL-C血症、高血症、糖尿病に対する薬剤治療を受けている場合は、それぞれの項目に含める。
- * 2 : フィブラートおよびニコチン酸を使用している場合は、高TG血症と低HDL-C血症が存在すると想定する。高用量n-3系脂肪酸を使用している場合は、高TG血症が存在すると想定する。
- * 3 : ウエスト周囲長は立位、軽呼吸時、臍レベルで測定する。脂肪蓄積が著明で臍が下方に偏位している場合は助骨下縁と前上腸骨棘の midpoint の高さで測定する。
- * 4 : CTスキャンなどで内臓脂肪量測定を行うことが望ましい。
- * 5 : 糖尿病、高コレステロール血症の存在はメタボリックシンドロームの診断から除外されない。
- * 6 : メタボリックシンドロームと診断された場合、糖負荷試験が勧められるが診断には必須ではない。
- * 7 : BMI>30Kg/m²ならば中心性肥満が存在すると想定されるので、ウエスト周囲長の測定は必要ない。中国人や南アジア人では男性≥90cm、女性≥80cm。
- * 8 : もしFPG≥100mg/dLならばOGTTの施行を強く勧めるが本症候群の診断確定に必須ではない。
- * 9 : 日常臨床ではIGTでもよいが、メタボリックシンドロームの有病率に関する報告では、この診断基準を評価するために、すべて空腹時血糖と2型糖尿病の既往のみを用いる必要がある。2時間血糖値を加えた有病率も補足として加えることは可能である。
- * 10 : ウエスト周囲長は、腸骨稜の頂点のレベルで、通常の呼吸終末に測定する。
- * 11 : アジア系米国人では、ウエスト周囲長の基準を男性≥90cm、女性≥80cmとする。
- * 12 : フィブラート系薬とニコチン酸は高TG血症と低HDL-C血症に対して最も頻用される薬剤である。これらの薬剤のうち1つを内服している患者は、高TG血症と低HDL血症を合併しているとみなされる。
- * 13 : グルコースクランプ法によるグルコースの取り組み率が集団の下位1/4に相当する。
- * 14 : メタボリックシンドロームに関連するいくつかの構成要素（高尿酸血症、凝固異常、P. AI-I 上昇など）が知られているが、診断には必須ではない。
- * 15 : 日本人の場合、IDFの提唱による男性90cm以上、女性80cm以上を推奨とする。

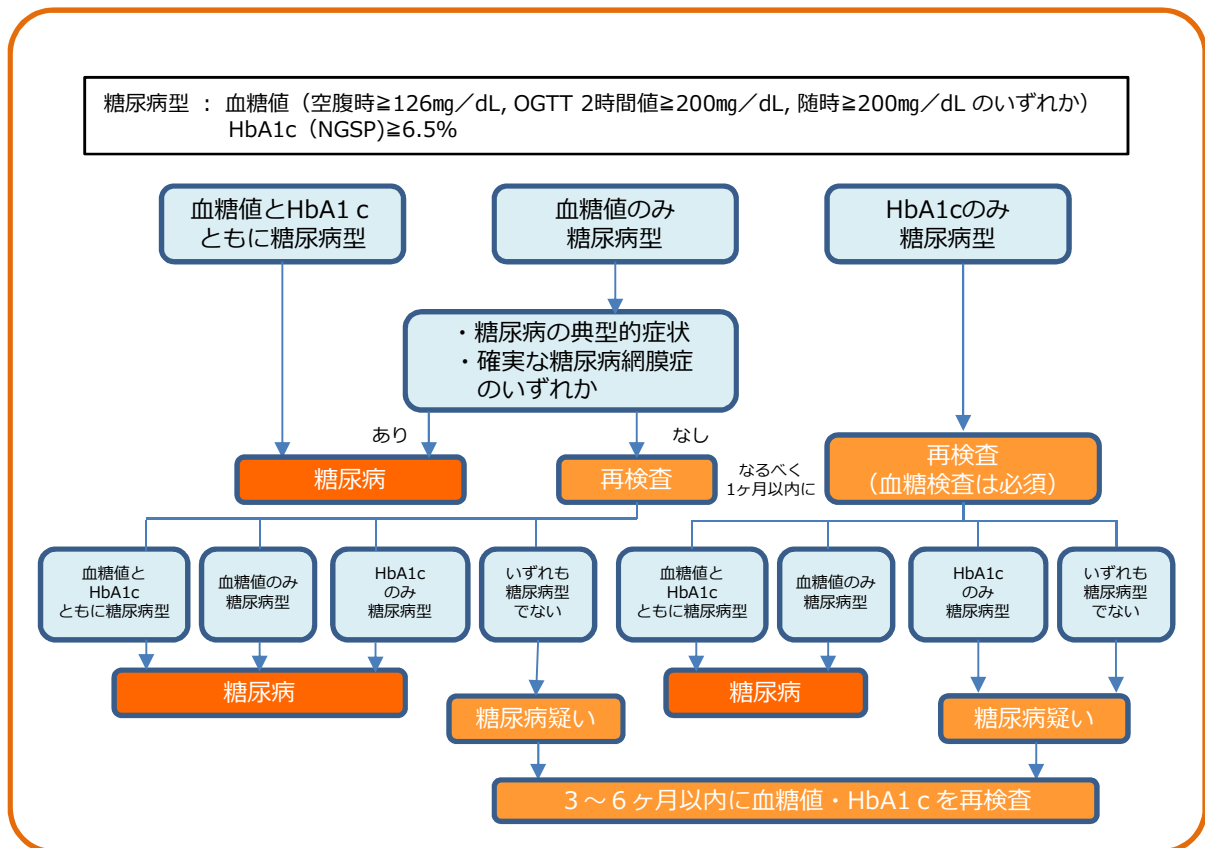


図1 糖尿病の臨床診断のフローチャート

出典：科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013